

【10-3-2】 主要科目の特長（現代社会学部現代社会学科）

現代社会学科の教育課程（カリキュラム）を構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

キリスト教に関する科目

〈キリスト教〉に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」についてを理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

〈人間理解〉、〈社会理解〉、〈自然理解〉、〈歴史文化理解〉、〈環境理解〉、〈身体理解〉（〈身体理解〉）、〈地域理解〉

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ〈人間理解〉、社会のしくみを考える〈社会理解〉、自然をさまざまな角度からながめる〈自然理解〉、人間や世界の文化や歴史を学ぶ〈歴史文化理解〉、地球環境や生態系について考察する〈環境理解〉、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ〈身体理解〉（〈身体理解〉）、まちづくりを多様な視点から考える〈地域理解〉の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実は、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに設置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

(2) 専門科目

①専門基礎科目

この科目群は、現代社会学部で《専門科目》を学修する上で必要な基礎的知識と能力・方法・態度を修得するための7つの《専門科目》で構成されています。「社会学入門」、「ミクロ経済学入門」、「マクロ経済学入門」、「法学入門」および「地域政策入門」の5科目は、社会学、経済学、法学、政策・地域の各領域から導入科目として厳選したものであり、すべて必修になっています。

また、「現代社会入門」は、専門的な学修に向けた導入として、現代社会を学ぶ意義、ならびに現代の時事問題に関する基礎知識を理解することを目的とした科目であり、「社会リサーチ入門」は、現代社会の現状や課題をリサーチする基礎的な方法や態度、さらに課題発見・問題解決型能力のための基礎を身につけることをめざした基礎的科目です。

②基幹科目

この科目群は、その名のとおり現代社会学部の基幹となるもので、カリキュラムを構成する4つの基本分野である〈人間社会と心理〉、〈経済社会と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉から厳選した15の《専門科目》ならびに「プロジェクト演習A・B」で編成されています。これらはすべて選択科目ですが、卒業要件では「選択必修」になっており、可能なかぎり履修し、単位を修得することが望ましい科目に位置づけられています。

「社会学理論」、「社会学史」、「地域社会学」、「産業社会学」、「家族社会学」および「社会心理学」は、社会学の主要な分野を意識した上で、現代社会学部のカリキュラムに必要な基本科目を厳選したものです。「文化人類学」、「社会政策論」および「経済社会学」は、それらを補完し、人間・政策・経済につながるもので、《展開科目》でより専門的な学修を進めるために必要な基本科目です。「現代経済分析」、「経済政策論」、「現代産業論」および「日本経済入門」は、経済学の基礎や実用的な経済知識を身につけ、産業・企業・

政策・地域などについて学修するための基本となる科目です。また、「民法入門」は、社会制度や政策の基礎となる現行法の基礎を学ぶ科目であり、「名古屋都市論」は、本学の名古屋キャンパスが立地し、現代社会学部の主要なフィールドとなる大都市「名古屋」について学ぶ科目です。

さらに、「プロジェクト演習 A」と「プロジェクト演習 B」は、現代社会に対する問題意識や研究関心を涵養するとともに、課題発見・問題解決型能力を育成し、かつ実社会の具体的な課題や問題解決に活用できる実践的な専門的知識や能力を身につけることをめざした科目です。

③展開科目

《展開科目》は、カリキュラム表で確認できるように、現代社会学部の 4 つの基本分野、つまり〈人間社会と心理〉、〈経済社会と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉によって編成されており、それぞれには、関連する領域から厳選された《専門科目》が配置されています。

〈人間社会と心理〉は、社会の人的側面や心理的要因から現代社会にアプローチし、ひとが人間らしく生き、人間の生への配慮や支援のできる社会づくりに必要な知識と能力を身につけるための科目群によって構成されており、そこには、社会学、経済学、経済社会学、社会政策論、社会福祉学および人類学などから採用された 14 の科目が配置されています。〈経済社会と企業〉は、経済学の体系を念頭におきつつ、成熟した現代社会や社会生活を支える経済を社会のなかに位置づけ、そのしくみや働き、その人間社会にふさわしいあり方について学ぶための科目群によって編成されており、なかでも、広く経済社会に関わりのある科目ならびに経済を担う産業や企業に関する科目が多く配置されています（計 18 科目）。

また、〈社会制度と政策〉は、現代社会を動かす大きな要因として、社会生活を制度的に基礎づける法律と社会を運営する行政や政策、その現実や本来のあり方について学ぶための科目群によって構成されており、なかでも、社会生活を制度的に基礎づける法律に関する科目と現代社会を運営する行政や政策に関わる科目が多く配置されています（計 16 科目）。〈社会生活と地域〉は、人間の社会生活やそれを大きく規定する地域から現代社会にアプローチし、社会のなかで他者との協働により自分の生活を自分らしく構築し、社会を動かしていく上で求められる知識と能力を身につけるための科目群によって編成されており、そこには、社会学、経済学、法学、社会政策論、人類学、地域政策論および都市政策論などから採用された 15 の科目が配置されています。

④関連科目

この科目群は、現代社会学部がめざす特別な教育目的のために必要とする《専門科目》によって編成されたもので、そこには、次のような 2 つのカテゴリーがあります。

〈スキル&社会調査〉には、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させるための「デジタルプレゼンテーション」と「データ表現技法」、ならびに「社会

調査士」の資格認定に必要な科目が配置されています。

また、＜留学&インターンシップ＞には、現代社会学部が推奨する「短期留学プログラム」での学修を単位認定するための「国際理解1~4」、ならびに特色あるプログラムとして推進する「中長期インターンシップ」での学修を単位認定するための「中長期インターンシップ1・2」が配置されています。

(3) 演習科目

①基礎セミナー

1年次春学期の「基礎セミナー」は、大学・現代社会学部での学修への導入・基礎教育であり、2年次以上の専門的学修の準備段階となる必修科目です。ここでは、名古屋学院大学に親しんでもらうとともに、大学での学修を体験的に理解し、大学生活に必要なアカデミックスキルを身につけてもらいます。なかでも、a) 大学での学び方、b) 文献資料の調査・検索のしかた、c) レジюме・レポートの作成のしかた、d) 報告・発表やディスカッションの工夫、などのスキルや能力の修得は必須ですのでがんばりましょう。

②専門基礎演習

2年次の「専門基礎演習」は、1年次に身につけた「学びの技法」を専門的学修や学問に有機的に結びつけることを目的としています。特に、3年次以降の学修や専門的研究ならびに「現代社会演習1・2」の準備や土台づくりとして次のような5つの力を身につけることをめざします。

- a) 課題を発見する力 b) 自分を表現する力 c) とともに議論する力
- d) 問題を解決する力 e) 実践や行動する力

このゼミナールは、講義で学んだ専門的知識を生かしながら、さまざまな問題について話し合い、議論をたたかわせ、現代社会へのアプローチを広げ、関心を深め、お互いに自分の課題テーマを見いだす場となります。ですから、ゼミナールの時間や活動には必ず出席しなければなりません。

③現代社会演習1

3年次から4年次にかけての「現代社会演習1」、「現代社会演習2」そして「卒業研究」は、現代社会学部での学修の総仕上げになります。まず3年次の「現代社会演習1」では、ゼミナール担当教員の指導のもとで専門的学修をさらに進め、自分の研究課題を追究します。このときには、現代社会学部の特色である「現代社会を学ぶアイテム」や「アクティブな学び」が役に立つはずで

また、ここでは、「NGU 学生フォーラム：現代社会」参加に向けた作業、社会見学やフィールドワーク、ゼミ合宿やゼミ旅行、および進路相談や就職活動に向けた準備、などさまざまな行事やゼミ活動もおこなわれます。そして、終了時には、自分の研究課題についてまとめた研究報告書を作成します。この研究報告書を提出しないと、4年次の「現代社会演習2」を履修できませんので気をつけてください。

④現代社会演習2と卒業研究

4年次の「現代社会演習2」でも、ゼミナール担当教員の指導のもと、専門的学修の仕上げとともにゼミナールでの研究成果のまとめをおこないます。また、同時進行で、「卒業研究」に向けた論文の作成指導もおこなわれます。この指導のもとで論文を書き上げ、提出すると、「卒業研究」の単位が付与されます。この4年次のゼミナールでも、さまざまな行事やゼミ活動が展開され、さらに就職活動に対する支援や就職相談も継続しておこなわれます。

◎専門科目の一部をピックアップ

メディア論

メディアの歴史や意義を学びながら、現代社会におけるマスメディアの社会的機能や役割、インターネットやSNSに代表される近年のメディア現象について学びます。そして、メディアを軸に人々の意識や社会がどう変化するかを考察します。

地域経済論

主に名古屋圏を対象に地域経済を学びます。地域における自治体の重要性や民間企業の営業戦略、大学の役割などを学修します。データだけでなく実践的な学びを重視し、データ上に表れない「勢い」を読み取る、経済的センスも養います。

観光まちづくり論

近年の観光ビジネスでは、これまで以上に観光地の文化を意識するようになってきました。なぜそのような風潮になったのか。そして今後の観光はどう変化していくのか。社会現象の一種である観光を、社会の変化と合わせて考察します。